

# ハイブリッド型登場

## 高速性と信頼性を確保

インメモリDBでユニークなのがアルティメイトだ。「メモリとハードディスクの両方を搭載したハイブリッド型」となっており、「高速性と信頼性を同時に満たすという発想からできている」とシアンズ・アールの平岡秀一社長はいう。

メモリディスクとハードディスクを同一きょう体に収め、リアルタイムでの高速処理をメモリで、メモリに蓄積されて使用頻度が低くなったものや大量データで処理を終えたものなどをハードディスクに永続的に格納、というように役割分担を明確にしている。

ポイントは「レスポンス速度と既存システムにほとんど影響がないこと、そして無駄なIT投資をしなくて済むこと」にあるようだ。

例えばスポーツくじ発券システムでは急激なアクセス増加に対してデータベースのボトルネックが解消された。また、先物オプションシステムでは、注文処理時間が従来は80秒だったのを3秒に短縮、単位時間当たりの注文処理量が増加した。

また、製造業の生産工場を見ると、様々な装置から大量のデータが収集されている。これをベースにリアルタイムに分析、制御できるようにすればスムーズな生産体制を構築でき、さらに無駄なIT投資が減少する。

こうした課題を持つユーザーに対して、事例をショーケースとして提案できるのがSI会社の立場でもあるが、そのSI会社の技術支援は欠かせない。今後の課題は、インメモリDBの知名度アップだけでなく、SIパートナーの技術支援と確保にありそうだ。

インメモリDBの良さは高速性にあるが、一方でシステムを構築するSI会社の技術修得と向上がまた追いついていないのが現状だ。データベース市場の大部分がRDBMSであることから、

### 上 がる 注 目 度

インメモリDBというからにはリアルタイムの更新処理が当然で、「高速検索処理だけに目を向けるとデータベースの意味がなくなる」ことから、DBとしての価値をアピールしている。

アルティベースは、金融業や通信業、製造業で導入が進んでおり、「ワールドワイドでは1万サーバー、日本でも400サーバーの利用がある」

### SI 会社の 奮 起 を

インメモリDBの良さは高速性にあるが、一方でシステムを構築するSI会社の技術修得と向上がまた追いついていないのが現状だ。データベース市場の大部分がRDBMSであることから、